



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）

Nara IDSC



🌿 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 全数報告対象感染症発生状況（平成 22 年 12 月） **NEW**
- 病原体（ウイルス）検出情報（平成 23 年 1 月） **NEW**
- 保健環境研究センター2月だより ～麻しんワクチンを2回受けましたか？～ **NEW**
- 奈良県インフルエンザ検出状況 **NEW**
- 奈良県ノロウイルス検出状況 **NEW**



（調査週） 平成 23 年 第 5 週 1 月 31 日（月）～ 2 月 6 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	19.87	↑	↑	↑	↑
2	感染性胃腸炎	5.71	→	→	→	↓
3	水 痘	1.06	→～↓	→～↓	→～↓	→
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.83	→	→～↓	→～↑	→
5	咽頭結膜熱	0.43	↑	↑	→～↑	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 773 例で、前週報告の 773 例から横ばい。上位 5 疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③水痘、④伝染性紅斑、⑤咽頭結膜熱＝流行性耳下腺炎の順。インフルエンザの報告数（613 例）は、増加。咽頭結膜熱の報告数（8 例）は、やや増加。流行性耳下腺炎の報告数（8 例）は、横ばい。水痘の報告数（17 例）は、ほぼ横ばい。伝染性紅斑の報告数（10 例）は、ほぼ半減。感染性胃腸炎の報告数（105 例）は、やや減少。お、インフルエンザの定点報告の内訳は、奈良市 HC 管内；240 例、郡山 HC 管内；373 例だった。（村井 記）

県中部地区概況 報告数は、604 例から 516 例と減少した。上位 5 疾患は、インフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘、A 群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱の順であった。インフルエンザは 392 例と減少を示し、中和地区では定点報告数が 17.82 である（桜井保健所管内は 14.91、葛城保健所管内は 20.73）。感染性胃腸炎は 82 例と横ばいである。眼科定点からは、流行性角結膜炎 1 例の報告が葛城保健所よりあった。基幹定点からの報告はなかった。（高木 記）

県南部地区概況 報告数(第4週→第5週)は144例→123例と推移。報告のあった疾患は、①インフルエンザ(98例→88例)、②感染性胃腸炎(21例→13例)、③A群溶連菌咽頭炎(14例→11例)、④水痘(5例→6例)、⑤突発性発疹(2例→2例)、⑤RSウイルス感染症(1例→2例)、⑦伝染性紅斑(1例→1例)。(柳生 記)

【全数報告対象感染症発生状況(平成22年12月)】

平成22年12月1日から31日に、奈良県内の保健所に届出のあった全数把握対象感染症は、以下の通りです。

12月報告患者数(平成22年2月9日現在)

類型	疾患名/保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	12月計
2類	結核	11	3		5	1	1	21
3類	腸管出血性大腸菌感染症		1					1
4類	デング熱	1						1
4類	マラリア			1				1
5類	クロイツフェルト・ヤコブ病		1					1
5類	後天性免疫不全症候群	1	1	1				3

(感染症情報センター 記)

【病原体(ウイルス)検出情報(平成23年1月)】

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、1月におけるウイルス検出状況は以下の通りです。

患者数(平成23年1月検出分)

検出病原体		北和	中和	南和	その他	臨床診断名
コクサッキー	B1	1				感染性胃腸炎(1)
ポリオ	3		2			感染性胃腸炎(1)、下気道炎(1)
アデノ	1		2			上気道炎(1)、咽頭結膜熱(1)
アデノ	3		1	1		上気道炎(1)、中耳炎(1)
アデノ	4		1			下気道炎(1)
インフルエンザ	A/H3		1			インフルエンザ(1)
インフルエンザ	A/H1N1 pdm	5	6	4	1	インフルエンザ(16)
インフルエンザ	B	1				インフルエンザ(1)
RS			2			下気道炎(2)

(保健環境研究センター 記)

【保健環境研究センター 2月だより ～麻しんワクチンを2回受けましたか?～】



麻しんは、子どもの病気というイメージがありますが、学生や大人にも罹ります。重症化すると、肺炎、中耳炎、心筋炎、脳炎などをおこし、妊娠中に感染すると、流産や早産などを引き起こす可能性があります。

2006年、予防接種施行令が一部改正され、1歳（第1期）と小学校入学前（第2期）の2回の麻しんワクチン定期予防接種が導入されました。その後2007年に、高校生ならびに大学生を中心とした地域的大流行が発生しました。調査の結果、既接種者のなかには1回のみ接種者が含まれており、抗体価獲得が不十分であったことが要因として判明しました。このような事から、厚生労働省は2回ワクチン接種を奨励し、2008年度から中学校1年生（第3期）と高校3年生（第4期）に相当する方を対象とする無償の定期予防接種5年間の時限措置として実施し、2回目のワクチン接種を呼びかけています。

2010～2012年度 麻しん定期予防接種対象者

第1期：生後12か月以上24か月未満の者

第2期：5歳以上7歳未満のものであって、小学校入学前の1年間

第3期：中学1年生に相当する年齢の者（年度内に13歳になる者）

第4期：高校3年生に相当する年齢の者（年度内に18歳になる者）

奈良県および全国の麻しんワクチン接種率は、表のとおりです。麻しん流行阻止に必要な接種率は95%とされていますが、全ての接種対象者で達成できていないのが実情です。

麻しんが流行するのは、春から夏にかけてです。出来るだけ早めに予防接種を受けましょう。麻しんにならない、させないために、予防は大切です。

表)2009年度麻しんワクチン接種率(%)

	第1期	第2期	第3期	第4期
奈良県	89.8	92.0	83.8	78.5
全国	93.6	92.3	85.9	77.0

国立感染症研究所感染症情報センターより



詳しくは、市町村の相談窓口で確認してください。

(保健環境研究センターウイルスチーム 記)

奈良県インフルエンザ検出状況

平成 22 年度奈良県感染症発生動向調査事業
平成 22 年度新型インフルエンザ対策事業

平成22年度新型インフルエンザ対策事業
表. A型インフルエンザウイルス検出状況

		(採取日別、上段:新型、下段:季節性)					
採取週	第2週	第3週	第4週	第5週		総計	
市町村	まで	1/17~1/23	1/24~1/30	1/31~2/6			
北和	奈良市	93 14	3	2	3	101 14	
	大和郡山市	12 4	1			13 4	
	天理市	12 2				12 2	
	生駒市	14 7				14 7	
	山添村		1			1	
	平群町	1				1	
	三郷町	4				4	
	斑鳩町	1 2				1 2	
	安堵町	1				1	
	中和	橿原市	20 8				20 8
桜井市		8 3				8 3	
宇陀市		1				1	
川西町		1				1	
三宅町		1				1	
高取町		1				1	
大和高田市		5 39	1			6 39	
御所市		5 5	1	4		10 5	
香芝市		8 6				8 6	
葛城市		4				4	
上牧町		3 1				3 1	
王寺町		1				1	
広陵町		5 1	1			6 1	
河合町		1 7				1 7	
南和		五條市	6		1 1		7 2
		十津川村	4				4
	大淀町	1				1	
	下市町	2 2				2 2	
	天川村		2			2	
他	6 5				6 5		
合計	218 109	9 1	7 1	3	238 111		

(平成23年2月4日現在)

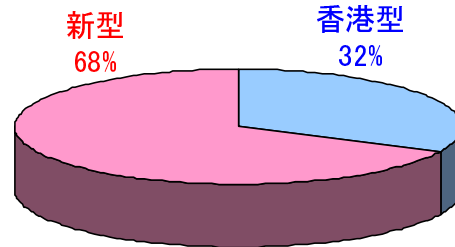


図. 平成22年度インフルエンザウイルスの亜型比率

今シーズンのインフルエンザ流行は、第4週が流行のピークであった模様です。また、少数ながらB型インフルエンザウイルスも検出されており（奈良市、五條市）、今後の動向が注目されます。

薬剤耐性検索では、主流の新型（AH1pdm）ウイルスでオセルタミビル耐性株は、昨年7月の1例以降見つかっていません。しかし、耐性ウイルスは突如として高頻度に流行する可能性があります。我々は引き続き動向を監視し、状況をお知らせします。

☆ 薬剤耐性検索（検出数/検索数）

新型ウイルス：オセルタミビル耐性（1/182）

香港型ウイルス：アマンタジン耐性（33/33）

（保健環境研究センターウイルスチーム 記）

奈良県ノロウイルス検出状況

平成 22 年度 感染症発生動向調査事業
平成 22 年度 食品の検査による安全確認事業

☆ 集団感染症（検出事例数）

- G I 4月：小学校（1）
11月：小学校（1），幼稚園（1）
- G II 5月：小学校（1）
6月：特別養護老人施設（1）
11月：保育園（5），幼稚園（2），他（1）
12月：小学校（1），幼稚園（1），
保育園（1），他（5）
1月：特別養護老人施設（1）

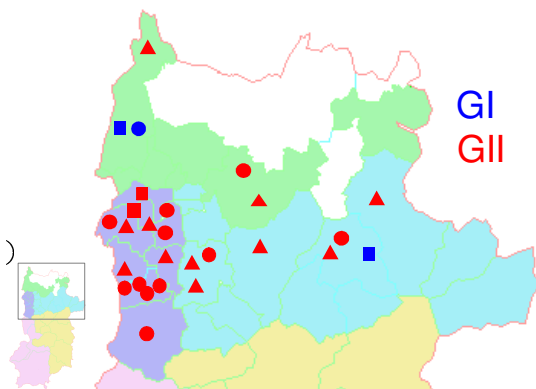


図. ノロウイルス集団発生状況

（食中毒事例を含む）

○：保育所・幼稚園、□：小学校、△：老人保健施設、他

（平成 23 年 2 月 4 日現在）

☆ 有症苦情を含む食中毒事例（検出事例数）

- G II 5月：京都府関連（2）
7月：大阪市関連（2）
11月：他（1）
12月：老人福祉施設（1），他（1）
1月：大阪市関連（1），他（1）

☆ 感染症発生動向調査 病原体定点からの検出数（まとめ）

表. ノロウイルス検出状況（採取日別、上段：GI、下段：GII）（平成 23 年 2 月 4 日現在）

採取週	第21週	第23週	第24週	第39週	第40週	第47週	第48週	第49週	総計
市町村	5/24 ~ 5/30	6/7 ~ 6/13	6/14 ~ 6/20	9/27 ~ 10/3	10/4 ~ 10/10	11/22 ~ 11/28	11/29 ~ 12/5	12/6 ~ 12/12	
北和 奈良市				1		1			2
御所市	1		1				1		3
中和 香芝市						1			1
葛城市					1	2	1		4
南和 五條市		1	1			1	1		4
大淀町							1	1	2
他					1				1
合計	1	1	2	1	2	5	4	1	17

これまでのノロウイルス検出状況をまとめました。今シーズンは GII 型が優位で、集団生活の場での感染が多く見られました。2011 年に入り病原体定点からの検出はありませんが、集団感染・食中毒事例はまだまだ散見されます。また、1 月下旬には A 群ロタウイルスが検出されました。今後は、これらの胃腸炎ウイルスに注目した状況をお知らせします。

（保健環境研究センターウイルスチーム 記）